

熱中症による救急搬送の状況

救急企画室

1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員数の調査を行っており、全国で毎年4万人以上の方が熱中症により救急搬送されています。今年度は5月1日から調査を開始し、7月23日までに26,441人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送されました。

今後も厳しい暑さが続くようですので、住民の熱中症に対する関心を高め、積極的な予防啓発活動に努めていただくことを目的として、今年度の熱中症による救急搬送状況・傾向

向・予防策等についてお伝えします。

2 熱中症による救急搬送状況

① 週別の推移 (図1)

7月に入り、搬送人員数が増加しています。急激に気温が上昇するような環境の変化に、体の順応が追いつかなかったことも、救急搬送人員数の増加の要因の一つと考えられます。

平成29年の熱中症による救急搬送状況 (週別推移)

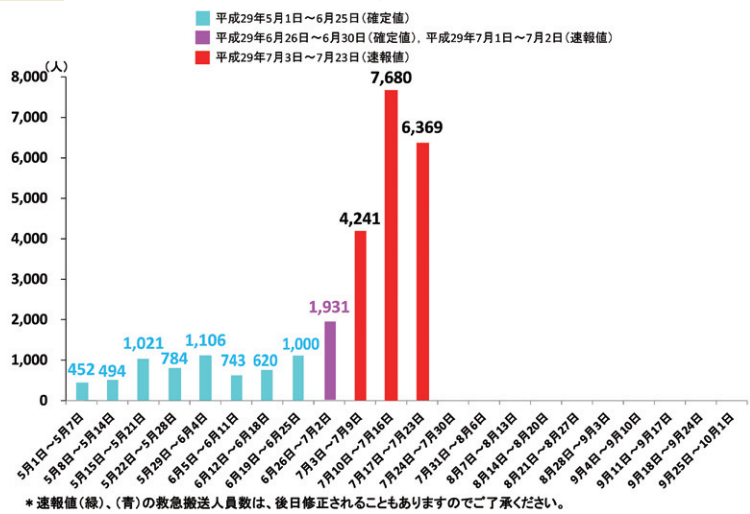


図1

平成29年 都道府県別熱中症による救急搬送人員数 合計搬送人員数 前年との比較 (5月1日から7月23日)

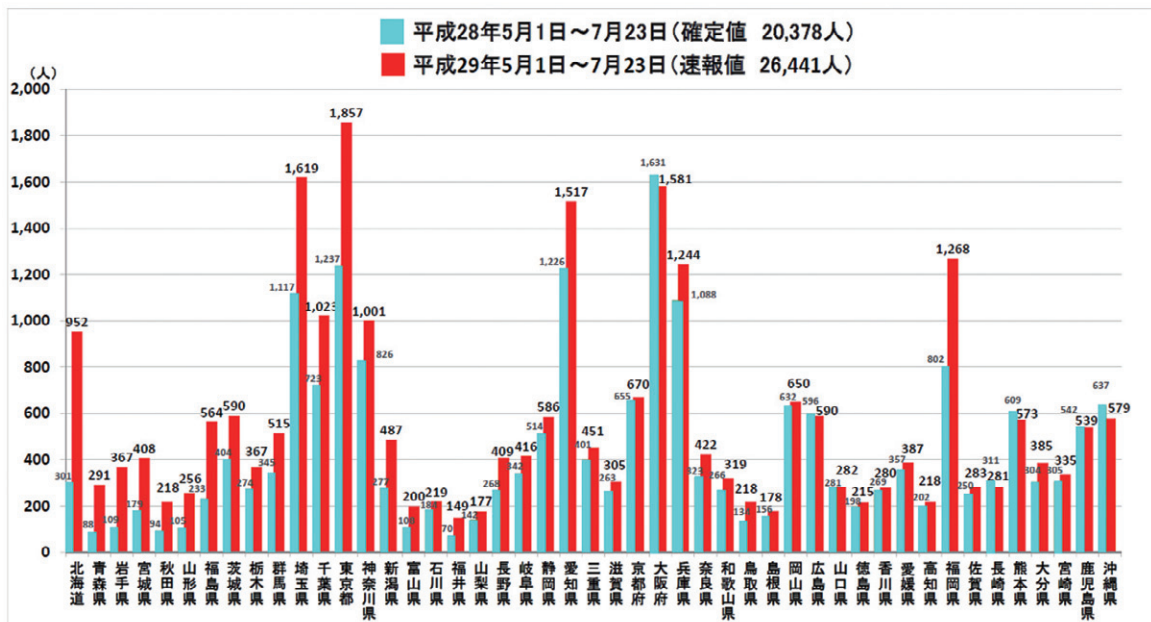


図2

② 都道府県別の合計（図2）

5月1日から7月23日までの熱中症による救急搬送人数の合計26,441人のうち、東京都が1,857人で最も多く、次いで埼玉県1,619人、大阪府1,581人、愛知県1,517人、福岡県1,268人、兵庫県1,244人となっています。

③ 年齢区分ごとの救急搬送人員数（図3）

5月1日から7月23日までの熱中症による救急搬送人数の合計26,441人のうち、高齢者が13,090人で最も多く、次いで成人8,883人、少年4,182人、乳幼児279人、新生児7人となっています。救急搬送人員数の半数近くを高齢者が占めます。高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくいことが原因の一つと考えられます。高齢者には、周囲の方がこまめに声を掛けて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

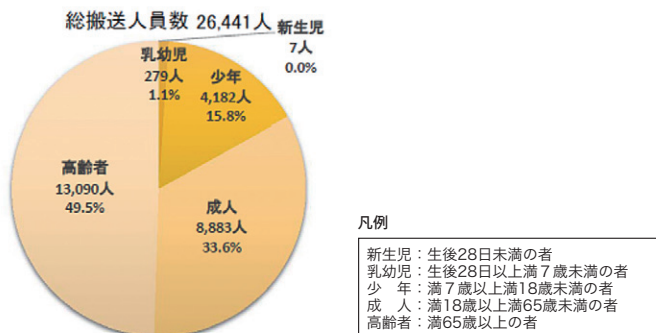


図3

④ 傷病程度ごとの救急搬送人員数（図4）

5月1日から7月23日までの傷病程度ごとの熱中症による救急搬送人員数の合計26,441人のうち、軽症が16,907人で最も多く、次いで中等症8,629人、重症581人、死亡22人となっています。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

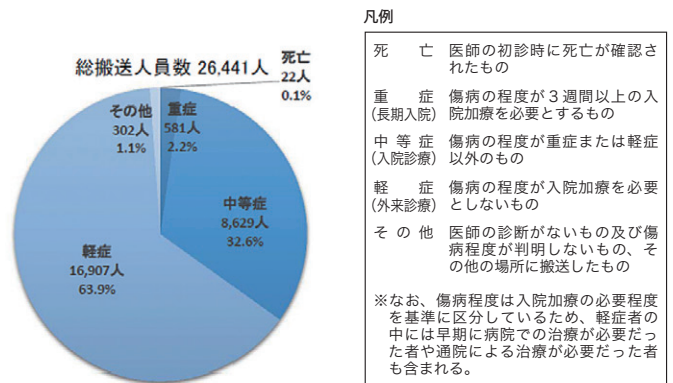
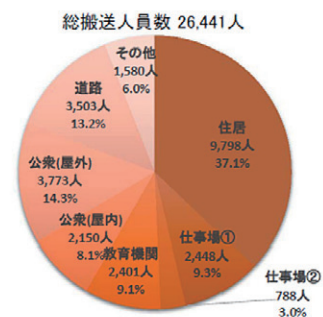


図4

⑤ 発生場所ごとの救急搬送人員数（図5）

今年度から新たに発生場所ごとの救急搬送人員数を追加し、集計を行っています。5月1日から7月23日までの発生場所ごとの救急搬送人員数の合計26,441人のうち、住居が9,798人で最も多く、次いで公衆出入り場所（屋外）3,773人、道路3,503人、仕事場①2,448人、教育機関2,401人となっています。

室内でも、温度や湿度が高いと熱中症になる可能性がありますので、予防対策として「部屋の温度をこまめに確認する」「室温28℃を超えないようにエアコンや扇風機を使って、過ごしやすい環境を整える」ことが必要です。また、外出するときの注意点として、「適宜日陰の涼しい場所で休憩をする」「体を締め付けない涼しい服装をし、日よけ対策をする」「無理をせず適度な休憩をとる」「のどが渇かなくてもこまめな水分補給をとる」といった予防対策が必要です。



凡例

住居（敷地内全ての場所を含む）
 仕事場①（道路工事現場、工場、作業所等）
 仕事場②（田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ）
 教育機関（幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等）
 公衆（屋内） 不特定者が出入りする場所の屋内部分
 （劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅（地下ホーム）等）
 公衆（屋外） 不特定者が出入りする場所の屋外部分
 （競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅（野外ホーム）等）
 道路（一般道路、歩道、有料道路、高速道路等）
 その他（上記に該当しない項目）

図5

3 熱中症予防の啓発について

消防庁では、熱中症予防のための予防啓発コンテンツとして、消防庁HPの熱中症情報サイトに、予防啓発ビデオ、予防啓発イラスト、予防広報メッセージ、熱中症対策リーフレットを提供しています。今年度は、全国消防イメージキャラクターの「消太」を活用した熱中症予防を呼び掛けるポスターを作成しました。ポスターの下段に各団体名を入れる空白欄を設けていますので、同サイトからダウンロードして御活用ください。

同サイトにはあわせて、都道府県や消防本部による熱中症予防啓発の取組事例集を掲載していますので、各消防本部は、取組事例集を参考に、必要な場面に応じてコンテンツを御活用ください。

4 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症弱者と言われる高齢者や子供を守ることができます。

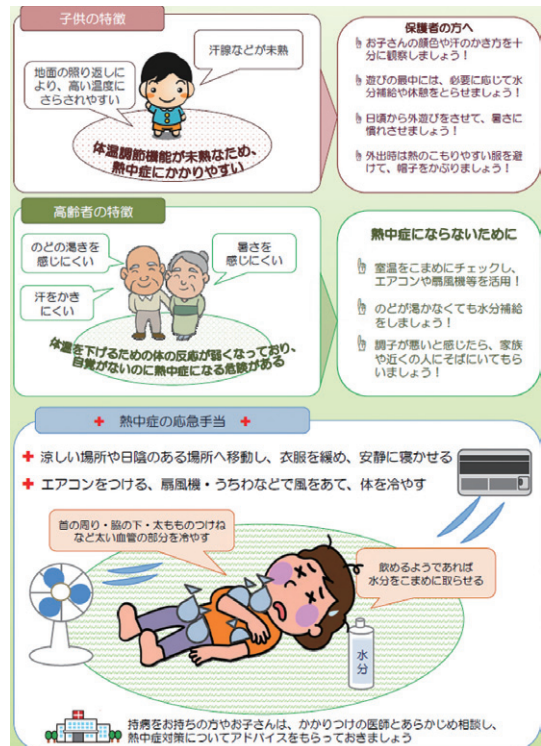
消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、暑さが続く夏に対して、引き続き予防啓発に努めていきたいと思えます。

消防庁熱中症情報 http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。



熱中症予防啓発ポスター



熱中症予防啓発リーフレット

問い合わせ先
消防庁救急企画室
TEL: 03-5253-7529